

## 2 評価の観点、評価規準

### ● 結果と考察

評価の観点が「設定してある」場合の記述内容について (質問6)

### 「課題設定力」「問題解決力」「関心・意欲・態度」 「学習への主体的・創造的な態度」の重視

評価の観点についての記述は、小学校38校(56%)、中学校16校(47%)から回答があった。それらを、表現の仕方は異なるが意味の近い観点到に集約し、図8、9のような観点到にまとめた。図中の観点是、「教育課程審議会答申」(平成12年12月4日)に例示された11の観点和それら以外に複数校から回答のあった観点を挙げている。

比較的回答数の多い観点是、

問題解決力

(小学校61%、中学校50%)

学習への関心・意欲・態度

(小学校55%、中学校50%)

課題設定力

(小学校47%、中学校56%)

自己の生き方を考える

(小学校37%、中学校44%)

学習への主体的・創造的な態度

(中学校63%)

である。これらは、先の「育てたい資質・能力・態度」の設定と同様に、主に学習指導要領のねらいに基づいて設定した傾向がうかがえる(図8、9)。

設定してある観点的数は、2~12と、学校によってまちまちである。また、ほとんどの学校では3~5つの観点が設定されており、4つの観点を設定している学校が、54校中26校と最も多い。これは、教科における評価の観点的数を参考にして設定したものである。

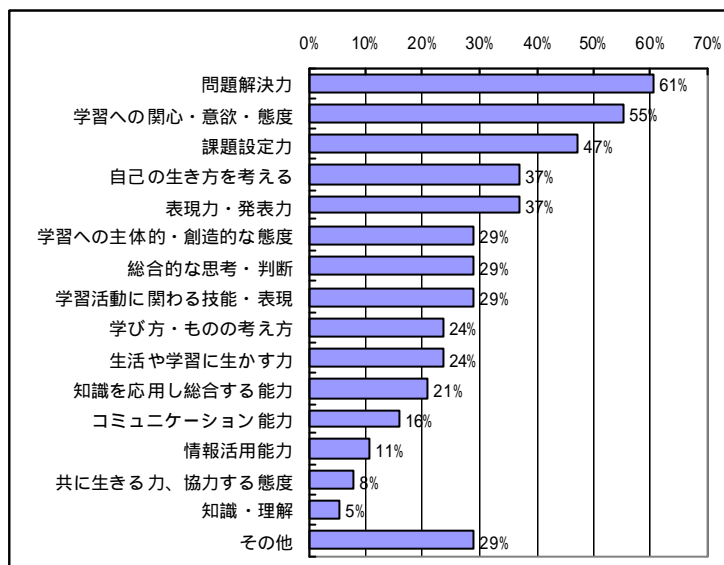


図8 設定してある評価の観点(小学校) 複数回答

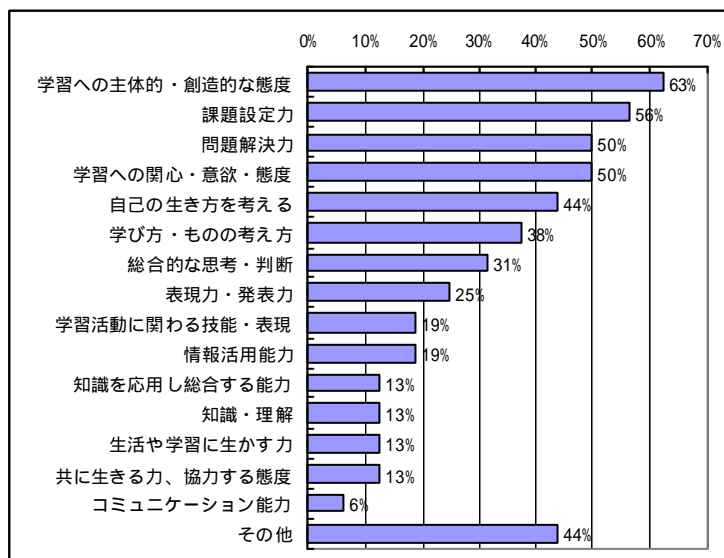


図9 設定してある評価の観点(中学校) 複数回答

注:図8、図9中の「その他」の記述例

企画力、計画・立案、創意・工夫、実践力、行動力、進め方、研究内容、研究発表、感じる力、考える力、伝え合う力、人や他のよさに気付く豊かな心、集団へ寄与、つなげる、成長・進歩、学習の振り返り、他

発達段階に応じた評価規準が設定してあるか。 (質問8)  
 学習過程ごとの評価規準が設定してあるか。 (質問9)

## 「発達段階に応じた評価規準」の設定は、 小学校で約6割、中学校で約4割

評価規準の設定状況について詳しく見ると、学年の「発達段階に応じた評価規準」が設定してあると回答した学校は、  
 小学校61%、中学校41%  
 である。

また、問題解決的なプロセスで組まれている単元計画等で、「学習過程ごとの評価規準」が設定してあると回答のあった学校は、  
 小学校47%、中学校29%  
 である(図10、11)。

これらは、前述の「育てたい資質・能力・態度」の設定や「年間活動計画」の作成状況と比べると、割合が低い。このことから、学習内容については、学年ごとに配列されているが、評価規準については、まだ整備されていない様子がうかがえる。

発達段階や学習過程ごとの評価規準の作成には、教科等の目標や内容との関連からの分析が必要であり、多大な時間と労力がかかる。今年度も設定に向けて検討している学校が多く見られるのは、そのためと考えられる。

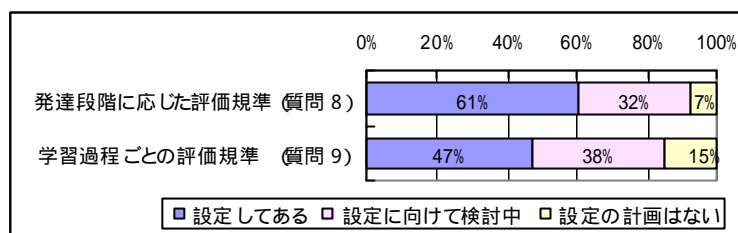


図10 発達段階や学習過程ごとの評価規準の設定状況 (小学校)

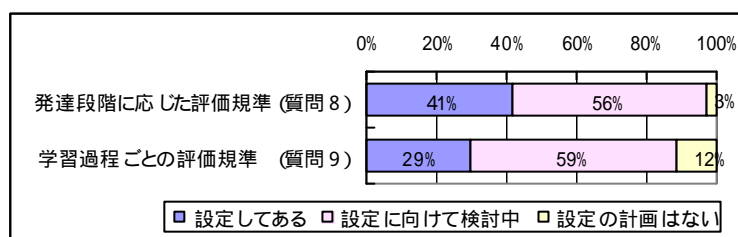


図11 発達段階や学習過程ごとの評価規準の設定状況 (中学校)

### ● 課題

評価の観点の設定や評価規準の作成に関して、次のような課題が挙げられる。

「育てたい資質・能力・態度」を教科等との関連から分析し、**学年の発達段階を踏まえた評価規準として具体化する。**

指導と評価の一体化を図るために、**問題解決的な学習過程の段階ごとに評価規準を作成する。**